

令和6年度第1回川崎市公共施設マネジメント推進委員会（議事録）

1 開催日時 令和6年4月11日（金）午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所 本庁舎3階305会議室

※対面及びWEB会議のハイブリット形式にて開催

3 出席者

出席委員

李 委員、伊藤 委員、朴 委員、村尾 委員（対面出席）

稲生 委員（WEB出席）

市側出席者

樋口 総務企画局公共施設総合調整室長

島田 総務企画局公共施設総合調整室担当課長

佐藤 総務企画局公共施設総合調整室担当課長

中村 総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

藤原 総務企画局行政改革マネジメント推進室担当課長

（※爲房担当係長が代理出席）

川又 財政局財政部財政課担当課長

水嶋 財政局資産管理部資産運用課長

事務局

総務企画局公共施設総合調整室 各職員

4 議題（公開）

地域ごとの資産保有の最適化について

（1）第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」の開催結果について

（2）地域ごとの資産保有の最適化検討の進め方について

（3）アンケート調査の結果について

5 傍聴人数 1人

6 会議内容（※『太字』は次第における各項目）

『開会』

—事務局より、令和6年度第1回川崎市公共施設マネジメント推進委員会の開催を宣言—

—開会挨拶（樋口 総務企画局公共施設総合調整室長）

—事務局より、事務連絡—

『(1) 第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」の開催結果について』

【李会長】

それでは、次第に従いまして進めさせていただきたいと思います。

まず、議題1として、「地域ごとの資産保有の最適化」のうち、(1) 第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」の開催結果についてとなっております。

まず事務局のほうから資料1について説明してもらいます。その後、それに対する御意見の時間を設ける、そういった流れで進めていきたいと考えています。

それでは事務局から説明をお願いします。

(資料1について事務局から説明)

【李会長】

倉斗委員、山口委員からの意見はありますか。

【事務局】

今回御欠席の倉斗委員及び山口委員から、事前の説明の中で意見を頂戴しておりますので、その意見について、御紹介させていただければと思います。

(資料6について事務局から説明)

【李会長】

ありがとうございます。

それでは、今の内容について、委員の皆様から御意見等をいただきたいと思いますので、御意見等がある方は挙手をお願いします。

【稲生委員】

今回、ワークショップ、第1回、第2回を踏まえて、事務局のほうで御整理いただいて、今後の課題等も踏まえて第3回以降のワークショップの進め方について御議論されたと理解しております。

参加なさった方、特定の地区はともかくとして、全般的な、雑ぱくな印象を申し上げますと、非常に進んだ考え方というところとちょっと言い方が雑かもしれませんが、従来型の公共施設の考え方(図書館は本を読む場所等)と比較すると、公共施設の捉え方が広いということを今回参加された方の御意見を拝聴して感じました。

また、川崎発の新しい産業づくりの場として公共施設を考えることができないのかとか、川崎市というところ、いろんな資源が実は豊かに埋蔵されているところから、地域資源をどういうふうに活用していくのか。これと公共施設というものをうまく結びつけていくことができないのか。こんなような問題意識を持っておられた参加者の方が多かったのではないかと考えられました。

それから、最後にアンケートを御披露いただいたかと思いますが、この中でも一番私

が感銘を受けましたのが、他者との交流によって今まで気づいていなかったような新しい視点とか観点、もちろんペルソナを設定して20年後を見据えたことで考えていくというのは、なかなか慣れていないと難しい部分があるかと思いますが、いずれにしても、他者との交流によって新しい視点が得られた、これは非常に有意義な場であったなど、こういう感想があったのが非常に印象的でした。

専門的には、「学習が進んだ」という言葉で言われることがありますが、いずれにしても、大変すばらしい機会を川崎市様のほうで御提供いただいたんじゃないかと思いました。

したがって、以上のようなことから考えますと、市民の方、参加された方が、非常に大きな視点あるいは立場の方から参加いただいているというところを、事務局のほうでどういうふうにまとめるのかということになりますと、やはりこれはある種の割り切りというか、最大公約数的なところで、公共施設の機能、建物をある程度特定した上で、それをどういうふう to 今後マネジメントするのかということで、作業的には進めざるを得ないという部分があるかと思います。これ自体は非常に仕方がない部分もあるんですけども、これだけ、いろいろ学習を踏まえて参加されたメンバーの方が非常に奥深く、また斬新な発想を持っておられるわけですから、ぜひ事務局さんには柔軟に今後対応いただきたいなど、こういうふうに思った次第です。

やや抽象的な感想で恐縮ですが、まずコメントを申し上げさせていただきました。ありがとうございます。

【李会長】

稲生委員、ありがとうございます。

稲生委員、御意見をいただくときに、WEBシステムがちょっと止まっていまして、発言の一部を頂戴できなかったもので、後で議事録を作成するときに補充をお願いします。

【稲生委員】

承知しました。ありがとうございます。

【李会長】

それでは、ほかの方、御意見はいかがでしょうか。

朴委員は今回のワークショップには出席されましたか。

【朴委員】

幸区のワークショップ、第2回目に参加させていただきました。

今回も非常に興味深い内容と、先ほどありましたが、いろんな御意見があって、実に皆さん、よく考えていらっしゃるというか、すごく考えさせられる部分がありました。多摩川の沿線という形で、多摩川をもっとうまく使う。川崎は多摩川と鶴見川に挟まれた領域ですから、いろんな形のことがあるといいというふうな、施設としての使い道の意見があったことが、個人的には私も同じ考えをずっと長い間、思っていたので、大変うれしく思ったのが1点あります。

あと、先ほどもちょっと出ていましたが、公共施設の考え方の中に、企業とのコラボをするとか、そういう形のことをより取り入れて、将来的にはもっと広く使える形を目指したらどうでしょうかという御意見もあったことが、ある意味で斬新でした。公共は公共、企業は企業みたいな形で、何か別々に考えていることが結構多いというふうに思っていたので、むしろそういうことをこれから先はお互いに、人口が減っていくこともあるでしょうから、やっていくことが重要なのかなということを感じました。

あとは、ITをいろいろ使っていくような形というのは、今後増えるだろうとは言っていますが、やはりデジタルデバイドの話もありますし、どこかで切り捨てるような形があってはならないということが一つと、同時に、ITによってより利益を受ける方というのは、むしろ受益者としては、そういうことに対価を払うというのかな、何かそういう違いがあってもいいんじゃないですかという御意見もあって、それはそれで面白い意見だと感じました。

【李会長】

ありがとうございます。

公共施設をどう使うかということは、今までは、行政側のほうから市民に施設を提供し、施設があるから使いなさいと言っていたんですけど、朴委員がおっしゃったとおり、何かその施設、例えばスポーツ施設とか図書館とか、それが公共のものなのか、民間のものなのか、市民から見ればどちらでも構わないんですね。家から近くて使いやすくサービス品質がよければ、公共でも民間でも関係ないので。

ですので、機能中心で公共サービスを新たに提供することを考えると、民間もそこに一緒に入って、共同で、被ることのないような形でやる、そういう発想が今、川崎市のほうで少しずつ実現できている、そういうふうに感じていますね。

ほかの委員の方、意見はいかがでしょうか。

【伊藤委員】

私も大変意義のある取組だなと思っています。ちょっと雑ばくな感想ですが、やはり御意見を個別に見ていますと、これまでは必ずしも公共施設を頻繁に利用していなかったような方も、今回のワークショップに参加して、しかも立場とか年代の違う方と意見交換をするということで、地域における公共施設の在り方について考える機会が提供されたという点では非常に意義深いことだと思います。また、川崎市としての取組も理解していただいた部分があり、非常に有意義だと思います。

今後のスケジュール的なところとでいいますと、恐らく回を重ねるごとに、より具体的に、ある施設をどう考えるかという視点がもう少しクローズアップされてくると思いますが、今の段階ではまだ地域のあるべき未来像みたいな話なんですけれど、現実的にどうするのかというところが多分これからより具体的になってくると思うんです。

そのときに、ほかの自治体などで見ていると、今まで公共施設をあまり使っていなかった方がいろいろな御意見を出して、多機能化したほうがいいんじゃないかとか、壁を外したほうがいいんじゃないかという議論をする一方で、やはり今まで公共施設を使っていた方々との意見の違いみたいなものが出てくるかもしれないというところがあり

ますので、その辺をどう市のほうでコーディネートするとか、コラボレーションをどう考えていくかということも重要なのかなというふうに思います。

【李会長】

ありがとうございます。

ほか、意見はいかがでしょうか。

【村尾委員】

私も感想なんですけど、4区それぞれのまとめを見ていると、図書館を有効活用しようみたいな意見が結構多かったかなと感じていて、自分も川崎区に住んでいるんですけど、どこと比べてという話でもないんですが、やはり図書館は蔵書の数じゃなくて、例えば読書室、恐らく市立図書館は読書室がないかなと思うんですけど、大師図書館も読書スペースはないし、3席ぐらいしか本を読む場所がなかったりして、そういう読書室とか自習室みたいな、あと交流というんですか、交流スペースみたいなものが足りないかなと思っていて、そういうところでもうちょっと図書館を有効活用できたらいいのかなと思っている人が多いんだというのは、これを見て確認できたということ。

あと、多摩川エリアの話も出ていたと思うんですけど、これも一応公共施設マネジメント、施設として考えるということであれば、例えば隣の大田区はグリーンインフラを造ろうとしています、多分、多摩川エリアに。川崎市も、どういう運用をしていくのかは分からないですけど、うまく人との交流とか、それ以外にも防災とかでうまく利用できるかというのかなと、素朴な感想として思いました。

【李会長】

ありがとうございます。

今回の川崎市の1回目も2回目も、内容を見たら、かなりよくできているなというのが私の感想なんです。

以前から、ほかの自治体も見てきたんですけど、私の基本的なスタンスは、ワークショップに否定的なほうだったんですよ。なぜかというと、市民の意見を聞くためのワークショップをたくさんやるんですけど、大体違う方向に行っちゃうことが結構あって、だから結局、実際の作業のときに実現できずということが結構あるんですけど。

その違いはどこから来るかというと、行政側のほうで、ワークショップのために事前にいろんな準備をしっかりとった上で、その情報を市民の方がある程度理解した状態でのワークショップ、これがよくできるワークショップのプロセスかなというふうに感じております。

ですので、そうするためには行政側のほうが大変苦労するんですね。だけど、その結果がこのように、ワークショップで出てきた市民の意見は私のためになる、そういうことがあるので、このようなワークショップの進め方をぜひこれからも維持してほしいし、ほかの自治体でもちょっと参考になる、そのような資料としてできたらいいなと感じておりました。ありがとうございます。

『(2) 地域ごとの資産保有の最適化検討の進め方について』

【李会長】

では、続きまして、(2) 地域ごとの資産保有の最適化検討の進め方について、事務局から資料2、資料3について、説明をお願いします。

(資料2、資料3について事務局から説明)

【李会長】

ありがとうございます。

それでは、今の資料2、資料3に基づいた最適化検討の進め方の内容について、委員の皆さんから御意見などをいただければと思います。御意見がある方は挙手をお願いします。いかがでしょうか。

【伊藤委員】

御説明をありがとうございました。

一つは、考え方としては、別に今御説明いただいた内容で特に異論はないんですけれども、軸施設という言葉自体がちょっと誤解を招きかねないかもしれないと思っています。よく読めば、あるいはよく聞けば分かるんですけれども、軸施設というと、その施設を中心として何か再編、統合みたいなことを行うというイメージがどうしても出てくるような気がします。ここで挙げられている軸施設というのは、あくまで非常に課題が多い施設で、むしろこのまま利用するには不適切であるということが明らかであるということが示されるようなものと理解しています。

ですので、場合によってはこの施設自体を廃止するとか、あるいは解体するとか、ほかの施設と統合するという可能性を検討するというものだと思うんですが、そうすると、この何か軸というと、非常に重要性があるような印象を受けてしまう。別に言葉自体を変えろという趣旨ではありませんけれども、誤解がないように、説明を丁寧にしていただきたいということがございます。

それから、これからを考えるに当たっての視点ということですが、先ほど倉斗委員の御意見にもあったんですが、やはりこれからデジタル化が進んでいくことになる、物理的な空間として維持することが必ずしも必要でないものというのが出てくるかもしれないということを想定しつつ考えていく、これはなかなか難しいんですけれども、そういうことを考えていく必要があると思います。

あと、災害リスクのところ、御説明では主に立地のリスクをお話しになっているかもしれないんですけれども、耐震性ですとか、施設自体が老朽化して、様々な基準を満たしていないという場合の災害リスクもあると思いますので、その部分も注視すべきだと思います。

【李会長】

ありがとうございます。ほかの委員、いかがでしょうか。

【朴委員】

この委員会が始まった最初のときに、いろいろ意見があつて、方針とかも出た中でもあったと思うんですけども、要するに古い施設はもう使われていないから、将来的に見越した形にして統廃合するんですよというような形を、印象として受けるというのはやっぱり今出た考え方と全く同じで、よくないだろうと思います。

ただ、結果論から見ると、どうしてもそういう方向になっていくんだろうなというのが、市民の立場から見ると、常にあります。それは、限られた場所とか予算とか時間とかがあるわけだから、当然そうになっていくんだろうと思います。

そういう中でどういう形にすることが一番いいのかということを、いろんな意見を踏まえた形でやりますと思うんですけども、結局やっぱりどこかで言っている、例えば言葉、おっしゃるように軸の施設というのもそうですし、最適化というのは、誰にとってどういう形が最適ですかといわれると、もう住民、市民であっても多種多様であつて、しかも年齢構成であっても多種多様ですから、当然、最適化という言葉に関して、言われれば言われるほど、私にとっての最適化じゃないよなというふうに受ける方も相当、多数いらっしゃると思うんですよ。そういう方たちにも、納得とは言わないけれども、理解していただけるような説明というのはかなり難しいと思うんです、私は。

自分の近くに自分の使える施設が自分の使いたいときにあることが、俺にとっての最適だと思う方が圧倒的に多い。そうじゃなくて、将来的に子供のための施設、あるいは将来的にお年寄りのための施設というものを、こういう形で、何の優先順位を定めて造ったのかということを示しながら、なおかつ、施設としての多機能性として、例えば災害リスクなんかに使えますよということを示すというような形であれば、もう百花繚乱になるのは当たり前なだけけれども、どこに重点を置くか、どこに優先課題があつて、そういう形が出てきているからと、こういう形で説明してくれると、なるほどと。8割方の人が理解してくれれば多分きっと成功なんだろうと思うんですけども、やっぱりかなり難しいだろうなと思います。

そういうお仕事をやっていただけるので、このやり方自体に私は問題ないと思いますが、言葉を常に、今おっしゃられたような軸施設もそのとおりだと思うんですけども、最適化という言葉も、どうしても役所にとっての最適化だよなという印象を受けるのは、なるべく避けるような形で進めていただけるといいなと思います。

【李会長】

ありがとうございます。

今、朴委員がすごく鋭い指摘をしてくださったんですけど、私は研究者ですので、研究者として、研究成果をまとめるときに最適化という言葉は基本的に使わないんですね。朴委員がおっしゃったとおりに、誰の視点から見た最適化なのかが、見る視点とかユーザーとか、そういうことでいろいろ変わってしまいます。ですので、最適化じゃなくて、似たような感じで「最」を外して、適正とかの表現が良いのではないかと思います。そうすると、「最」じゃないんだけど、適正な方向に持っていくんだとの意味合いを市民側に伝えることができるんじゃないでしょうか。市民代表の朴委員からそういう言葉が出たことにびっくりして、その部分は考え直す必要があるんじゃないかと私は感じました。

御意見をありがとうございます。
ほかに意見はいかがでしょうか。
稲生委員お願いします。

【稲生委員】

また通信が途切れたら御指摘いただければと思いますけれども。

今回、資料3についての御議論ということで、事務局から御指定いただいているんですけども、資料2ですか、スケジュールがあったと思うんですけども、ちょっとスピード感がこのままでいいのかなという懸念をしております、結果的に令和7年度に最適化、今映していただいていますけれども、最適化基本方針の策定みたいなことが行われて、結局8年度にならないと具体的な施設というところまでたどり着けないんですよ。

しかも、これは恐らく全ての地域について全体的にわっと進めていかれるおつもりだというふうに理解して、このチャートを拝見しているんですけども、これは前から思っているんですが、まず一つの地域あるいは一つの区でもいいんですけども、ある程度、パラレルになるかもしれませんけど、一つの地域で先行的に、一つか二つぐらいをピックアップして進めていただくほうが、市民の方にも、こんな感じで最適化の議論が行われて、こんな視点で分析が行われて、こんなアウトプットになりますというイメージを、ある程度見せたほうがいいんじゃないか、

【李会長】

今、通信が止まりました。

【稲生委員】

また切れましたね。今は聞こえていますか。すみません。

じゃあ、僕の発言で時間を取られてはあれですので、またメモにしてチャットで投げ込みますので、後ほど、またそれを議事録として書き写していただければ。

【稲生委員からのチャット内容】

- ・スピード感は適切か

→スケジュール案を拝見すると最適化方針が令和7年度、実際には令和8年度ということになる。この点はややスピード感に欠ける。

まずは先行的にとりくむパイロット地域を設定して最適化検討の成果を市民に見ていただき意見をいただくことも必要かと思われる

- ・軸グループ設定の方法

→有する機能、利用条件、利用者範囲や災害対策等を分析する。総論的には異論はない。

災害対策については、備蓄等まで視野にいれると施設の統廃合は困難なので注意。

ただ、「有する機能」については現在の機能で固定的に捉えることは適切とはいえない。

さきほどのワークショップで市民から出されたように市民のご意見に基づき、柔軟に対応いただきたい

(倉斗委員のご意見である「将来という時間軸」に注目する必要があるという点は重要)
・最適化を検討するにあたっては、これまで委員長からもご提案があったように若い方の意向を入れることが重要。やや論点は異なるが、若い人の公共施設利用促進という観点からは、年齢による利用料の免除や助成などの検討も重要

【李会長】

すみません。ありがとうございます。
稲生委員、聞こえますか。

【稲生委員】

議論をお進めください。チャットで流します。

【李会長】

すみません。ありがとうございます。
それでは、村尾委員、お願いします。

【村尾委員】

この議論は箱モノ削減なのかなと、ざっくり言うと、理解しているんですけど。軸施設の選定で、老朽化と利用度偏差値を要件に軸施設を選定すると多分ここに書いてあったと思うんですけど、これが市民が考える、いわゆる箱モノというのと、何かその施設が一致するのか、ちょっと思うところでした。以上です。

【李会長】

ありがとうございます。
今の御意見は、全体的に、このようなことをやって、箱モノ、つまり公共施設が減ることについて、ちょっとそれが心配だという、そのようなことですか。

【村尾委員】

そうですね。利用度偏差値と書いてあったんですけど、市民じゃない、行政の利用とかで会議室を使って利用度が高いところはあると思うので、それでもいいんでしょうけど、市民が思っている箱モノと、ちょっとずれが生じることはないのかなというのは、ちょっと疑問に思いました。

【李会長】

市のほうでは、今の御意見について、どのようにニーズに応えようと考えているのか、何か意見があればお願いします。

【事務局】

今いただいた御意見は、最適化の検討をしていく中で、対象となる施設を築年数と利

用度で選ぶというのが市民の方の思っていることと違うという意味でしょうか。

【村尾委員】

そんな感じです。

【事務局】

つまり、利用者の数だけではなくて、今の時代のニーズに合っていない機能なども検討の指標みたいな形で入れていったほうが、もしかしたら市民のお考えに近い可能性もあります。

今、村尾委員のほうから意見を頂戴しまして、確かに、そのような御意見も理にかなっているのかなというふうに思っております。ただ、市民の方が思うハコモノというものも集約するというのが、絞り込みの段階ではなかなか難しいところもございますので、まずは古くて利用されていないような施設というのを機械的に選定いたしまして、必ずしもその施設だけをやるというわけではないのですが、その施設を検討の起点として考えて、その施設の周りにある施設ですとか、そういったものと一緒に考えていきたいと思いますというのが、今回の考えになっております。

市民ニーズに合っていない施設というのは、恐らく今後、将来の施設の使い方の中で、ワークショップ等でも、将来のニーズですとか、今あまり使われていなくてニーズに合っていないんじゃないかというような意見も、これから出てくるのではないかというように考えておりますので、そういった御意見なども今後の検討の参考にさせていただきたいと考えております。

【李会長】

ありがとうございます。

今おっしゃられた内容はすごく重要な部分で、基本的に今まで公共のほうは箱を造って、そこには何々機能があるからと提供してきたことを、箱が先じゃなくて、中で提供する機能を先に検討して、市民の方々がよく使っている機能、つまりサービスと、これから求められるニーズ、つまり新たに必要な機能を探るためにワークショップとアンケートでたくさんの意見が出てきたわけです。

そのようなことを踏まえて、箱の量がこれからは減る場合もありますけど、逆に違うところで増える場合もあると思うんですね。ですので、今、村尾委員が懸念するような、必ずしも減ることではないよということをみんなに知らせることが必要ですね。このプロセスをよく知らない方々からすると、そのような意見、あるいはそのような発想がたくさんあるかもしれないです。ほかの自治体も同じです。

ですので、施設の縮減ではなくて、市民が求めるニーズあるいは今までの機能プラス新たに追加される機能を必死にいろんなプロセスで探して、それを提供する。その機能を凝縮させ、そのために大きな箱が必要であれば大きなものになる。あるいは小さなものでも提供できるのであれば小さくなる、そのようなことですね。

今、私たちの委員会で検討していることは、必ずしも施設が少なくなるよという、そういうことを目指すわけではないということを理解していただければいいかなと思います。

ます。

【村尾委員】

削減が別に目標じゃないということは分かったんですけど、財源を削減していくみたいな話ではないということですか。

【事務局】

念頭にないかということ、そのようなことはなく、やはり長いスパンで先を見通した取組というのが今回の資産マネジメントの取組です。将来の人口減少がそろそろ見えてきたのでというところでの今立ち位置なので、当然、人が減ると税収の不安ですとか、建物を今までは人口増加の中で川崎市も保有してきていますので、どんどん更新時期を迎えているというのもデータ上で明らかで、しっかり改修して使っていくという施設もたくさんまだありますので、そういう財政負担というのが常に私たちとしては頭にあって、ただ、少し立ち位置が難しいのですが、市の状況として、まだ少し人口増加が続いて、もう少ししたら川崎市は減り始める。他都市とかでは既に減少が始まっている。そういう中で、私たちはちょっと他都市と違う立ち位置の中で公共施設をどうしていこうかというところのテーマ設定なので、まず第1回とか、第2回でもお伝えしていたのは、やっぱり使い方はこれでいいのかなというところをしっかりと市民の方と意見交換していく。使われていないという施設もありますし、まだまだ必要だよ、でも古いよねというところもあるし、そういうところを立地とか、区の状況が、川崎市は結構広いので、違うので、施設の一つ一つを見ていかないかというのを今やっていると。

少しノウハウづくりみたいなところもあり、さっき稲生委員がおっしゃっていたスケジュール感ですかね、そこも今少しそういった仕組みづくりも含めて、丁寧にモデル地域という名の下にやらせていただいているという、そんな状況です。

【村尾委員】

分かりました。ありがとうございます。

【李会長】

ありがとうございます。

資料2の最後のページのスケジュールに関してなんですけど、先ほどワークショップのお話とか、今の資料の内容のお話を聞きしながら、おっしゃられたことなんですけど、最後にワークショップ成果説明会があるじゃないですか。この成果説明会はどのように、例えば、発表は誰が、行政のほうまとめて、市民に発表する、そういうことですか。

これは私の個人的な意見なんですけど、先ほどのワークショップで各地域ですごくいいアドバイスとか意見とかが出てきたので、成果発表会をするときに、それぞれのまとまった結果を市民が市民に、「私たちのワークショップではこういうことを考えました」というふうにワークショップに参加した市民が市民の方々に発表すると、もっと盛り上がるんじゃないかという、そのような気がしたので、完全に市民に任せるわけじゃなくて、行政と市民が一緒に共同で、市民が発表する内容を先に置いて、次に、それをまと

めた内容を行政側が、「このワークショップの内容を踏まえてこういうふうにします」という、そのようなプロセスで成果発表するとよさそうな気がしますね。ぜひ検討をお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。

【李会長】

ほかに、今の議題としていかがでしょうか。大丈夫ですか。

『(3) アンケート調査の結果について』

【李会長】

では、次の議題に進みたいと思います。続きまして、(3) アンケート調査の結果について、これについて、事務局のほうから資料4、資料5について説明をお願いします。

(資料4、資料5について事務局から説明)

【李会長】

ありがとうございました。

それでは、委員の皆さんのほうから御意見などをいただければと思います。御意見のある方は挙手をお願いします。

稲生委員、聞こえますか。

【稲生委員】

聞こえております。

【李会長】

ありがとうございます。

稲生委員、今のネットワーク状態がいいときに。

【稲生委員】

また通信が切れてしまうかもしれませんけれども。

基本的には、倉斗委員のお話があったと思いますが、私も全く同意見ということで、逆に重ねて付け加えるようなことはございません。よろしく願いいたします。

【李会長】

ありがとうございます。ほかの委員、いかがでしょうか。

朴委員、お願いします。

【朴委員】

私も全く同意見で、言われているとおりだと思うんですけども、これが、この委員会の一番重要なポイントだと思うんですね。要するに、施設のライフサイクルアセスメントを今やらなきゃいけないというところに、使う人たちの効率的な意向をどうやって結びつけるかという話も、この内容で探しているという状況だろうと思うんですよ。だから、非常に重要なデータで、非常に興味深い、一番興味深いデータなんですよね。

おっしゃるように、今までは会議場だとか集合場所というのは、人が寄り添う、集まって何かわいわいやるような場所だよねと言っていた感じだと思っていたら、実はそうじゃなくて、家から離れてまた一人になって読書をしたいとか、図書室、あるいはカフェ的で静かに過ごしたい、そういうような場所が欲しいですという方の意見が結構あったというふうに感じます。

カフェに行きたいと言っていらっしゃる方がかなりいらっしゃったけど、カフェは一人になりたいのか、友達と話をしたいのか、よく分からないけど、そういう形の用途希望が大きいこと自体から見ると、そういうものが今は増えているのかなというふうに感じます。

そこを考えると、施設をどうすべきなのかという考え方のベースがまた見えてくる。オンラインとかいろんな形、見えない形のものも作らなきゃいけないというようなことも用意すべきだということが非常に重要なんだろうなと思いました。

一つだけ、できることをやってほしいなと思うことは、会議室というようなものがあると思うんですけども、図書館とか、いろんな集会所にも。古い考え方の会議室は、人が集まって、何かみんなで議論をする場所を提供するという形になっているような捉え方があると思うんですけども、コロナのおかげというのも変ですけども、仕事をしている方でもオンラインでやる方が非常に増えて、実際、今のミーティングさえ、Z o o mを使ったりした形でのオンラインのものを会議でやっていますよね。そうすると、会議室というのは、多分この先、求められるのは通信機能だと思うんですよ。たった一人の、いわゆる中心の方がその部屋に来て、後はネット環境さえあれば、どんなに遠くの方々とも会議、ミーティングというのはできるんですよという形であれば、公共の場として備えなきゃいけない会議室のイメージというのは、今まで我々が持っていた建屋の中に会議室を部屋で用意してくださいというものとはかなり変わるんじゃないかなというものが、いろんな意見の中にも出てきたと思うんですよ。ITを利用する、そういう部分はもうすぐできるんじゃないかと思うんですよ。そこを先行してやってみたら、こういう会議室ができましたみたいなものを例として出していただけたら、ものすごくこれは分かりやすい委員会になるんじゃないかと、私は感じるんですけど。以上です。

【李会長】

ありがとうございます。

アイデアとして出た中に、コワーキングスペースという言葉があったんですよ。今の時代はコロナの時代から抜け出している最中なんですけど、企業のほうでは、抜け出したとしても、在宅勤務で週の中で3日出勤して、2日は在宅勤務も維持する企業が多

いんです。なぜかという、オンラインで仕事をするのは、コロナの中では仕方なくやったんだけど、やってみたら、企業の固定費の縮減にもつながるし、社員の業務効率にもそれほど差がないよということがどんどん分かったので、そうなっているんですね。

となると、在宅勤務でも、必ず家じゃなくて、家の近くの公共施設でそのような施設があれば、本当に企業に勤めている方はそこで、個人個人が入れるそのようなスペースで仕事ができる、その後、すぐに家に帰って子育てができる、そういうことにもつながるんじゃないかというようなことが、このアンケートとかワークショップのアイデアでも出てきたんじゃないかを感じるんですね。

朴委員のほうからも、そのようなつながりでの意見だったと思いますので、まさにこれから検討する、今までの利用状況に加えて、新たなニーズを把握して、これから提供する施設にそれを盛り込んだら、もっと活性化につながるんじゃないかなと思います。

朴委員、ありがとうございます。

ほかの委員、いかがでしょうか。

【伊藤委員】

今の御意見に全く賛成といいますか、そういったニーズが非常に高まっていることは確かだと思います。

ただ、その上で、行政というか、市役所としてどこまでそこにコミットするかというのは、ちょっと難しい部分もあると思います。民間でも貸ワーキングスペースみたいなビジネスがあって、そこが利用できる場合には利用しているという方も多いと思うんですね。ただ、例えば、なかなかそういうものが利用しにくい方々とか、あるいはそういうサービスを一般的に受けられないんだけど、潜在的にはそういったニーズがある方を対象として、市としてもサービスを提供するという考え方はあり得ると思うんですけども、実際にどこまでそれが、ニーズがあるかというのも把握する必要もあると思いました。

あとは、7ページのアンケート調査ですと、やはり若い方は子連れで過ごすというニーズがあって、これは保育とか、そういうことではなくて、子供連れで居場所があればいいなというようなニーズなのかなと思いますので、先ほどの仕事をするスペースに加えて、子供を連れていけるようなスペースとか、いろんな組合せの仕方というのはあると思いますので、そういったニーズを掘り起こすといいますか、調査で確認できる部分があれば、確認したほうがいいと思いました。

【李会長】

御意見をありがとうございます。

今、伊藤委員のほうから子連れで過ごすというアンケート結果に注目した意見があったんですが、これは実際に私にも該当するものにもなるんですよ。仕事をする方々は、子供たちという時間が週末か休日なんですけど、そのときに子供たちを連れて、例えばバドミントンとか卓球とか、そのような子供たちとできるスポーツとかをやりたいんですね。でも、場所がないんです。雨の日とか風の強い日には外ではできないし。ということで、近いところの公共施設とかを探しているんですけど、あるところが少なくて、

あったとしても、地域団体でお年寄りの方々の卓球グループが1年中予約して使ったりするので、子育ての方々が子供たちを連れて、家の近くのそういうところで使おうとすると、できないことがほとんどのパターンなんですね。

ですので、ここにアンケートにも書いてあるとおり、例えば20代、ばりばり仕事をする方々は、昼は使えないから夜間で、会社から帰って何かバスケットとかで、夜間開放されているところで汗を流して帰りたいとしていても、そういうところがないし、昼のときは専業主婦が子供たちを連れて、児童館とかで読書とかをしながら、自分もその間はお茶したい、そういう場所がないし、私のようなケースもあるし、あと、10代、20代の若い学生たちは、部活の練習とか、そういうこともできる場所がないしということで、年代別に、地域に住んでいる職種別に、使える時間帯とか、あとやりたいこととかがそれぞれ違うんですね。そのずれを明確に把握して、そのニーズを満足できるようにすれば、すごく活性化につながるんじゃないかなと。今、委員の皆さんの話を聞きながら、感じました。

話を聞きながら私の中に浮かんだのは、一つの公的サービスだけをやって帰ることではなくて、つまり、例えばスポーツをやりたいから、鍵を借りて、スポーツをやって帰る。あと、図書館に行って、本を借りて帰るとかじゃなくて、多様なサービスを一つの公共空間でできるようにすることです。

民間の総合型ショッピングモールに家族と週末に一緒に行くと、まずそこで、子供たちはそこの中のゲームセンターとか、あるいはスポーツ何かで、事前の予約なしでも、そういうところは使えるんですね。事前に予約する場所もありますけど、行って、そこでお金を払ってスポーツはゲームをする、人によっては習い事や講習会に参加する、展示会をやっていれば展示物を鑑賞する、次に下に下りて、カフェや食堂で一緒に御飯を食べる、食事をして、スーパーもあるからスーパーで買物をして戻るということで、ある場所へ行って、長い時間滞在できるあらゆるものがあるわけなんですね。

それを公共の場として考えたときに、ワークショップのアイデアで出た、地元の野菜とか販売所とか、地域によって、そのような特殊性があると思うんですね。ですので、地域のものを直接地域で販売できる販売所をそこに設けながら、その地域の材料を使って料理を提供するカフェが一緒にあって、上の階には子連れで来た家族がスポーツできる場所があってとなると、子供を連れてスポーツをやって、汗を流して、下の階で、地域の材料で作ったカフェで食事をして、貸出予約した本を受け取って、地域の野菜とかを買って帰る。長い滞在ができるんじゃないかと感じたんですね。

これも、先ほどのワークショップのアンケートの内容を見ながら感じたので、やっぱりこのアンケートの内容とワークショップの内容を上手に活用する価値が十分にあるんじゃないかと感じました。

以上です。

ほかに意見のある方、いかがでしょうか。大丈夫ですか。

【李会長】

今日予定していた議題及び報告は以上となりますが、全体を通して何か、皆さんのほうから御意見はありますか。大丈夫ですか。

【李会長】

それでは、これをもって本日の委員会を終了としますので、事務局のほうに進行をお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

【事務局】

長時間にわたりまして、御審議いただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和6年度第1回川崎市公共施設マネジメント推進委員会を終了いたします。

次回の第2回につきましては、6月または7月頃に開催させていただくよう考えております。内容につきましては、第3回ワークショップが控えておりますので、そちらの内容を中心に、御報告する予定でございます。また、第2回委員会の開催に向けまして、昨年度と同様、適宜、オンラインなどで事前説明のほうの機会を頂戴したいと考えておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

稲生委員におかれましては、WEB環境が不安定で御迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。また次回以降も引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議を終了したいと思います。誠にありがとうございました。

— 了 —